

教の必要を唱道すべき理由はさう云ふ所にあるのであります。けれども宗教の不必要を肯定して來る側は、是迄歴史的宗教なるもの必要が次第に無くなつて來た所にある。ソコで先刻擧げた所の宗教を必要とする側と不必要とする側の此の兩者にそれ／＼一半の理由のあることが分かる次第であります。

併ながら廣く見たる所の宗教と云ふものは、歴史的宗教に比べると云ふと、餘程違つた有様に見える、それで其のことを少しく述べて見ようと思ひますが、世間の人は宗教と言へば必ず歴史的の宗教を聯想して、それ以上に出づることが出來ない、それで此の宗教と道徳との關係に付て幾多の誤解を生ずることを免れないと云ふことになるのであります。

二

宗教と云ふものは其の起りを考へて見ると、殆んど道徳と種類を

異にして居るやうな有様であります。上代の宗教には殆んど道徳の元素が無いので道徳と餘程性質の違つたものに見える。勿論それが其の民族に對してナカ／＼強大なる制裁力を有つて居ると云ふことはあるけれども、道徳の教へに類したるものは殆ど缺乏して居る、此の場合に於ては全く缺乏して居ると言つても差支へ無いやうな有様である。所がさう云ふ宗教が段々進んで、さうして次第に宗教の中に道徳の元素が増加して遂にそれから此の道徳と云ふものが發展して來て居る。社會の道徳の發展した種類を考へると、宗教に關係して居ると多大であります。けれども段々近世の社會の狀態を大觀して見ると云ふと、歴史的宗教と云ふものを離れて道徳が獨立して居る有様であります。それで初は唯宗教あつて道徳無しと云ふ有様であつたのであるが、後には道徳と宗教とが對立して來たのであります。今日の有様では宗教と道徳とは未だ對立して居るが、次第に是

が遂に又一の道德に歸着して來る有様である。今日のやうに宗教と道德とが對立して居つて何方も人間の精神を律して往く所のものが二つあるなつて居ります。斯様に精神を律して往く所のものが二つあると云ふことは過渡時代のことで外思はれない。宗教の方は唯過去の形式が今日迄存続して居る有様で、此の宗教から出て來た所の道德は次第に宗教に代つて發展しつゝあるのであります。宗教の進歩と云ふことは主に此の道德元素の増加にある。ソコから考へて見ると云ふと、純道德的のものが成立ちて居れば宗教の最後の状態はソコに無くしてはならぬ。所が宗教が次第に道德化して、遂に道德が却つて、宗教を律する力を得て來て、一切の歴史的宗教を廣大無邊なる純道德中に溶化しようとする云ふ現時の状態となつて來たのであります。それでありますから初は宗教が一つであり、一本立ちであり、其の次の時代には宗教と道德との此の二つが並び行はれて居る。けれども

も是が次第に唯一の道德と云ふものに着歸せんとしつつあるからして、最後の状態は道德の一本立ちとなる譯けであります。道德が一本立ちとなつて純道德の状態に歸着すれば宗教が最も完全なる所に到達する譯けであります。昔の歴史的宗教はマア色々ありますが、其の色々ある歴史的宗教の中でいけない宗教である、アレハ悪い宗教である、下等の宗教であると云ふやうなのは抑、何に基づいて評價するかと云ふと、それは餘り人間の爲にならぬ、社會の爲にならぬ、詰り道德的要素に乏しくして却つて有害なる迷信などに富んで居ると云ふ所からして、識者が輕蔑してそれを擯斥するのである。それが其の下等なる宗教と見らるゝ譯けであります。個人に付て言つても決して完全なるものは無い、社會に付て言つても社會の害惡即ちソーシヤル、イーブルと云ふものは多大である、けれども個人に付て考へても亦一方には善なるものがある、即ち良心の如きものがあり

て、一層發展して完全に近寄らんとするものである。社會に付て言つても亦一方に於ては色々善良なるものが萌して居りますので、其の個人にあるものと、其の社會にあるものとを問はず、凡そ其の善なる方面を發展さして往く所に純道德の世界がある、純道德の世界は未だ完全に實現されぬけれども歳に月に實現されんとして居るのであります。又實現することを努力せんければならぬものであります。何故なれば人間の發展は唯此の働如何に關係して居るからである。過去現在未來と斯様に達観して見ると云ふと、人間の發展は過去より現在、現在よりは未來と云ふやうに、次第に其純道德の世界に近寄りつゝあるのである、それが人間の發展の過程であります。純道德の世界は即ち純善の世界である。此の純善の世界の建設即ち實現が宗教事業で純善其物が即ち廣大なる今後の宗教の内容であると考へられます。

道徳の二
方面及び
宗教に代
るべき純
道徳

三

道徳は二方面を有つて居ります、一は民族的方面、一は世界的方面、民族に對し其の本分を盡すといふことは道徳の半面であり、世界に對し人類に對して本分を盡すと云ふことは又道徳の半面であります。此の兩方面を合して來んければ道徳は純善となる譯けにはいかない。世界に對し人類に對する本分だけを認めて民族的道徳を顧みないものは平等に偏して差別を知らぬものであります。之に反して民族的道徳のみを認めて世界に對し、人類に對する本分を顧みないものは差別に拘泥して平等を忘れたものであります。何れも一方に偏したものであつて決して完全なる道徳の實現を期する譯けには往かないのであります。歴史的宗教に篤き信仰を抱いて居る者の中には往々世界に對し、人類に對する道徳を重んずるの結果、遂に民族的道徳を忘れるものがある、それは全く偏見の然らしむる所で

あつて、決して公平なる態度とは云へないのであります。併ながら
又民族的道德のみを尊重することを知つて居るだけでは道德に於て
甚しき缺乏なきこと免れない、國家に對しては斯様々々せぬれば
ならぬと云ふやうなナカ／＼重大なる民族的道德を唱へながら、
イ其の私行上に於て謹慎を缺き、凡そ人間としての品性を顧みない
と云ふやうなものが少く無いのであります。殊に日露戦役後、滿洲
の野に於て戦功を樹て、勳章杯を得た者が種々なる破廉恥罪を犯し
て、續々牢獄に投せらるゝと云ふやうなことは明かに此邊の消息を
洩して居るのであります。國家の爲に戦つて赫々の功を戰場に樹て
ると云ふことは確かに道德の一方面であります、併し其の一方
面だけには確かに全うされても、人類の一部として個人の私行を修めざ
る側に於て敗北する日には、ソレに大なる道德の缺陷が起つて來る譯
けである。吾々人類はそれ／＼其の民族に屬して居るけれども亦同

時に世界人類の一部分である。それで凡そ人間としての道德を全う
することを知らなければならぬ、それが又ナカ／＼重大なる人間の本
分であるのであります。それで民族的道德を重んずるの結果、若し
單に是のみを唯一の道德とする時は、凡そ人間としての本分の方を
全然看過すると云ふやうな甚しき弊害が見えるのでありますからし
て、民族的道德を重んずると同時に社會に對し人類に對する此の廣汎
なる人間としての本分を重んじて來なければならぬのであります。
其所に至ると云ふと、總て特殊の宗教より一層廣汎なる道德的範圍
があるの、それで特殊の宗教に代り得る所の性質を認めるところが
來るのであります。尤も道德にも色々の見方があります、色々の見
方がありますが大別すれば二つになると考へる。

即ち理想の見方と實際の見方でありませう。

此の二つのものは勿論調和されなければならぬが、理想的の方面

を離れて單に實際的にのみ拘泥する時には、道德は逆も宗教に代る様な權利を有たないのであります。併ながら理想的に見られた所の道德は縦令實際的方面と調和されても一方に理想的方面を存して居る以上は、廣汎なる靈的の性質を有つて居るもので、宗教に代つて人間の精神を律することが出来るのであります。丁度それは昔の儒教の如きものである。儒教は今こそ甚しく權威を墜したのであるけれども、或る時代には確かに人間の精神を律するだけの勢力を有つて居つたのであります。儒教は單に純道德をのみ目的として其以外には何事をも期して居らぬので、佛教や基督教とは餘程違ふ。詰り宗教の儀式は殆んど無くして、又迷信を伴つて居らぬ。其の期する所は専ら純道德にある。それでありますから今日純道德と考へるの儒教と性質を異にして居る譯けでは無い。けれども昔の儒教を今日に復活して來ると云ふやうなことでは無い。今日は今日の立

場から見たる純道德を目的として居るのであります。近頃儒教復活の聲も段々ありますけれども、儒教を昔の儘に復活するなど云ふことは逆も出來ないことであるし、又出來た所が決して有益なこととは思はれぬ。それは過去つた世にこそ效能があつたけれども、今日の如く事情境遇を異にして大に發展して來た社會には應用が利かない。今日の精神界に傳播して居る思想は儒教よりズツと豊富に高大に又嵩高になつて居る。儒教を復活すると云ふとは到底出來ないものであります。マアさう云ふ様な事をやる人も居らぬ。それは到底出來ないが佛教や基督教の如き歴史の宗教に拘泥しないで純道德を目的とする。云ふとあります。云ふと、それは出來ない事でない。さうしてそれは全く儒教的である。さうして精神の慰安を得るに最も適切である。此の純道德を目的とすることに對しては世に反對のあらう筈はない。純道德に達しさえすれば、其の由て來る所の徑路

は儒教であらうが、佛教であらうが、將た基督教であらうが、乃至其の他如何なる宗教であらうが、又は學術であらうが、それは一向差支へ無い。其の期する所が純道德にあれば我々の目的とは違つて居らぬ、けれども一向過去の形式に拘泥しないと云ふのが、我々の重要視する所であります。迷信などは固より一切採らない、今日の學術と撞着するやうな迷信を何で崇拜しませう、夫等は悉く撲滅して仕舞つて、さうして期する所は純道德にあるのであります。此の精神は儒教の精神と一致して居る、だから儒教の復活では無いけれども、儒教の精神の復活と云つても差支へ無い、さう云ふ純道德の實現を目的とする道德はそれは昔の歴史的の宗教に代り得るものであります。即ち今後の宗教は純道德に歸着するものと見るのであります。それでありますからして今後の宗教は餘程過去の儒教の如き態度を採るものと云つて差支へないのであります。

純道德の
根柢

四

世には宗教は必ず人間に對して偉大な効果があるけれども單に道德などと言つた所が逆も宗教の如き効果は無い、斯様に信する者があまりすけれども、それは間違ひである、全く道德の側から精神修養を成遂げた人格の例は勿論ある、それは儒教の人々を見れば分かること、孔子、孟子、程子、朱子、王陽明の如き人々は是は云ふまでも無いが、翻つて我が日本の北畠親房であるとか、山崎闇齋であるとか、木下順菴、中江藤樹、熊澤蕃山、伊藤仁齋、伊藤東涯、貝原益軒、室鳩巢、降つて維新の際に於ける横井小楠、吉田松蔭、橋本左内、それから水戸の學者、さう云ふやうな人々を考へて見ると分かる。さう云ふやうな人々の方が却つて今の牧師連よりは迥かに優つて居る所が見えるし、又今日の僧侶に比べても一層人格の高潔なる所が見えると云ふやうなことがあつて、歴史的宗教を藉らずして

純道徳の立場からしてさう云ふ人格修養の出来得べしと云ふことは明かでありませう。又西洋の側で言つても分かる、ソクラテースであるとか、カントであるとか、ゲーッペンであるとか其の他色々の哲學者科學者等に實に高潔なる人格が古今少しとしないことでありませうが、それ等の人々が必ずしも宗教家と云ふ譯けでは無い、純道徳の立場から見ても實に高潔な人格といふべきであります。尤も宗教にはナカ／＼迷信が多いからして、迷信にからまつてナカ／＼熱烈になる場合もある。けれどもさう云ふやうな場合には結果が有害である、迷信から出て来た行動はナカ／＼結果が盲目的で、どうかすれば其の中に善いこともあるけれども、ナ／＼カ悪いことが出来て来る、或は教育の進歩を阻害するとか、學術の發展を邪魔するとか何んとか云ふことが起つて来る、或は哲學者科學者などを迫害すると云ふやうなこともある、皆宗教の迷信的方面の害悪であります、そ

れに餘りに超絶的宗教觀念に驅られると云ふと、此の現世的社會的の道徳を全然度外視するやうな弊害も起つて来る、處がさう云ふとは社會の進歩に連れて次第に無くなつて来た、社會の進歩其のものが次第に妄想的のものから離れて實際的となり現世的となり誠に堅固なる基礎の上に人間の幸福を築き出さうと云ふ所にあるのである、それは純道徳と云ふことを目的として此の純善の世界を建設し其全體を實現すると云ふことが人間としては最も有益に最も健全に最も確實なることであります。

斯様に申しましたからと云つて佛教徒又は基督教徒が熱心に教義の長所を鼓吹すると云ふことは必ずしも我々は之を咎めぬのであります、それはそれ／＼の宗教の長所を此純道徳中に寄與すると云ふ結果を生じて來るのであります。純道徳の世界は總て過去の宗教徳の長所を集めて大成するのみならず、其の基礎を科學的研究に置くの

であります。併ながら科學萬能とは言はぬ、科學のみで以て純道德の世界は實現し得られぬ、科學は侮るべからざるものであるけれども、科學以上の精神的ものが必ず之を一貫して偉大の勢力を有つて居なくてはならぬ、其所に純道德の宗教たる性質が存して居ります、而かも過去の歴史的宗教よりも一層廣大無邊なる純善の理想界であります。

所が或る人は頻りに斯う云ふことを言ふのであります。道德と宗教は違ふ、道德は、人と人との間に存するもので、宗教は人と神との間に存するものである、斯う云ふことを言て區別しまするけれども、それは現今の所では宗教と道德とは對立して存立して居るからしてさう云ふ區別も固より出来るのであります。併ながら道德と云ふものは單に人と人との間に存するものと云ふやうなことでは、それは決して道德の真相を盡して居らぬ。成程道德は人と人との間に存す

るものであるけれども、それは一方面である、其の人と人との間に存するもの、根柢は人と人との間に存すると言ふべきであります。單に道德てふものは人と人との間にのみ存して、それ以外に何物も無かつたならば實にそれは淺蕪なる根柢の無い道德であつて、利巧方便と云ふやうなものに終つて仕舞ふ、英語の所謂エソキスベチエンシの道德と云ふものに終つて仕舞ふ、眞の道德とエソキスベチエンシとは違ふ、眞の道德はチャンと宇宙に根柢して居るものが無くしてはならぬ、それで道德はやはり哲學と關係がある、宇宙全體の解釋からして人間の道德が成立つて來るので、必ず基礎を斯かる深遠なる所に有して居らなければならぬ、其所を考へて見ると云ふと道德の基礎的の所に於て宗教と同じ性質が存して居る。此の同じ性質があつて始めて人と人との間の關係も大いに面目を改める次第であります、若し歴史的の宗教の中に道德上有益なるもの

がありとすれば、それは其深遠なる根柢があつてさうして此深遠なる根柢からして割出され来た所の人生間に因由するもので無くてはならぬ、さう考へて見ると云ふと、宗教と道德と云ふものが單に右のやうなことで以て立派に區別し得らるゝものでは無い、右様な區別は實に表面の區別に過ぎない、根本的の區別と云ふやうなものは無い。で道德の真相を明かにして來ると云ふと、決して宗教と根本的に區別し得らるゝものでは無い、根本的に區別し得られぬ所に道德の宗教に代り得る所がある。成程歴史的宗教と比較すれば、道德に色々違つた所が認められますけれども、又人間の精神を律するものとして見て來ると云ふと、古今を一貫して居る根本的のものがあつて明かに見えて來るのであります。

五

以上論じて來た所で道德と云ふものが世の所謂宗教に代り得るもの

である、換言すれば道德は即ち將來の宗教である、斯う云ふことが明かになつて參りまするが、茲に又之に對して是迄の宗教と云ふもの、即ち歴史的宗教なるものは人格的感化を基礎として居るのである、それで是迄の宗教と云ふものは道德の根柢として磨滅するもので無い、斯う云ふ工合に言つて來る者もあります。勿論佛教、基督教、儒教等の宗教徳教の類は此の人格を基礎として成立ちて居ります、けれども宗教と云ふものは何時でも人格を基礎として居る譯けでは無い、婆羅門教や猶太教や神道や其の他種々なる宗教が一向人格を基礎として居らぬと云ふことがあります、それでもナカ／＼盛大なる宗教となつて居ることがある、併しまアそれは姑く別問題として、兎に角佛教は佛陀、基督教は基督、儒教は孔子とそれ／＼其の偉大なる人格を本尊として出來て居るのであります、併ながら佛陀も基督も孔子も何れも偉大なる人格に相違ないけれども、偉大なる人格

は是等の人々に限ると云ふ譯ではない、又其の外にソクラテースの如き、ツアラトシトラの如き、目蓮の如き、カントの如き、偉大なる人格は古今東西數へ來れば少しとせぬのであります。で何も其中の一人だけを最大として他を皆拒絶したやうな態度を執るには及ばぬ。偉大なる人格は皆偉大なる人格として尊崇して其の長所を學ぶことを勉めるが宜しい、儒教徒が唯孔子のみを尊崇して佛陀であるとか、基督であるとかソクラテースであるとか總て他はそれに及ばないものとして顧みない風のあるのはいかぬ、又佛教徒が佛陀だけを尊崇して孔子も基督もソクラテースも何者もそれ以下の者と見るやうなと、又基督教徒が基督だけを尊崇して佛陀だの孔子だの、ツアラトシトラだのソクラテースだの總て其の他は逆も之と同一視するとの出來ないと云ふやうに偏頗な態度に陥ること、此の偏頗な態度即ち公平を缺いて居ること、それが我々から見ると、モウ、餘程間違

つて居ると思ふ、古今東西の偉大なる人格は悉く尊崇するが宜しい、公平に見るが宜しい。成程其の中に人の好む所に依て一層偉大と見える所があらうけれども併し凡そ偉大の人格は又それ、其偉大なる特殊の方面があるからして何れも尊崇して、さうして感化を受け、るが宜しい、けれども今日の道徳は其の目的とする所は特殊の歴史的人格にある譯け、では無い、宇宙に根柢し人生に根柢して立て、來るのであります、人間として斯かる目的を目的とせんければならぬと云ふ此の宇宙人生の關係から割出して來るのであります。それで特殊的人格の如く過去の理想を實現しよう、と云ふのでは無い。將來の理想を實現して純道徳又は純善の世界を建設しよう、と云ふのでありますからして、茲に一切の歴史的宗教の長所を悉く包攝するだけの偉大のものが存して居るといつて差支へない次第であります。

明治四十二年七月三日印刷
明治四十二年七月六日發行

正價金六拾錢

著者

東亞協會研究部

發行者

辻本卯藏

印刷者

東京市牛込區榎町七番地
渡邊八太郎

印刷所

東京市牛込區榎町七番地
日清印刷株式會社



發行所

東京市神田區猿樂町貳番地
電話本局三四三二二番

弘道館

振替口座壹貳壹壹壹壹

釋宗演禪師新著

筌蹄錄

本書は本邦現代精神界に於ける大立物たる釋宗演禪師の新著にして其内容に至つては脩養談あり、教育論あり、宗教談あり、實業談あり、而も其根柢に透徹せる禪味妙趣に到つては茲に吾人の表顯し得べき限りにあらず

洋裝美本
函入一冊
正價八十錢
郵税八錢

文學博士芳賀矢一先生主幹東亞協會文藝部編

曉靄集

四六判美本
全一冊
紙數四百九十頁
正價八拾錢
郵税八錢

◎絕世の美文文字——現代の名作秀逸——
第一流の大家、露伴、井上博士、芳賀博士、前田博士、上田敏、土井晚翠、佐々木信綱、大塚楠緒子、野口米、紫影、柴舟其他名士の傑作のみ名論卓説、美文、新體詩、俳句、小説、和歌、英詩、口繪挿畫あり

文學博士井上哲次郎先生主幹東亞協會編

倫理研究

(近刊印刷中)

弘道館出版書目

司法省參事官法學士泉二新熊先生校 法典研究會編纂

新刑法 附錄 改正陸軍刑法 四六判形三百餘頁
新刑法施行法 正文 正價金五拾錢
新監獄法 改正海軍刑法 郵税八錢

▲我邦國民は何人も一讀せざるべからざる法典▲

法學士笹川潔先生著

日本の將來

郵税 正價金六十一錢

▲我政治經濟社會及思想の將來に對する大議論▲
▲我日本の將來は如何に成り行くか▲

法學士笹川潔先生著

大觀小觀

郵税 正價金四十一錢

▲時に國家を提醒し社會を鞭撻し或は人事を觀し或は自然を謳ふ理趣あり、情景あり以て修養に資すべく又文章の範とすべし。

學海隱士著

成功秘訣受術

正袖珍金菊三拾錢

▲受験者の手引草受験の秘奧を闡明せしは本書也▲

發行所 弘道館 東京神田區猿樂町貳番 東京神田區口座貳番壹番

發兌 東京神田區口座壹番貳番 弘道館

弘道館出版書目

文學博士 芳賀矢一先生監修。東亞協會文藝部編纂

曉

集

紙四六判形頗る美本
正價數金三百餘拾錢

文學博士井上哲次郎先生 文學博士井上圓了先生序
文學博士元良勇次郎先生 下田歌子女士

日本家庭辭書

▲家庭末代の寶典▼

洋裝四六判頗る美本
七百三拾餘頁
正價金壹圓三拾錢
郵税金拾五錢

東京女子高等師範學校教授 東基吉先生編著

新案 育兒日誌

特製脊皮正價金五十錢 並製總クローズ 正價金四十錢送料八錢
▲子ある家庭には必備の寶典▼

伊藤眞一郎先生著

長壽論

菊判形全一冊
正價金貳拾錢

▲苟も保身の術を全ふし大に天下に爲すあらんとする士は座右の箴とし玉へ

弘道館出版書目

東洋大學講師 文學士 北澤定吉先生 宮地猛男先生共譯

哲學 汎論

菊判形全一冊
正價金五拾錢

▲哲學研究者の好案内也!!
▲初學者には好個の參考書也!!

東京小兒科病院長 醫學博士 瀨川昌者先生校
福岡縣立小倉師範學校校長 織田勝馬先生校
長崎縣立長崎高等女學校教諭 白土千秋先生共著

兒童 劣等生救濟の原理 方法

▲我邦低能兒教育主張者の嚆矢

洋裝菊判全一冊
正價金六拾錢

廣島高等師範學校教授 吉田信太先生作曲
廣島高等師範學校教師 原藤藏先生作技

(第八版)

國定 唱歌遊戲教授書

◎尋常科用全一冊◎高等科用全一冊

洋裝全總一布
正價金各冊八十錢

長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生共著
福岡縣立師範學校教諭 阿部清見先生共著

國定 算術教材資料

洋裝菊判全二冊
正價金壹圓拾錢

發行所 弘道館 東京神田區猿樂町貳番 振替口座貳番壹番壹番

發行所 弘道館 東京神田區猿樂町貳番 振替口座貳番壹番壹番

弘道館出版書目

綴方教授法精義

廣島高等師範學校訓導 藤井慮逸君
廣島高等師範學校訓導 久芳龍藏君
廣島高等師範學校訓導 新藤岩雄君
廣島高等師範學校訓導 新國寅彦君

共著

洋裝菊判全壹冊上製
紙數五百頁
正價金壹圓五拾錢

本書は心理的なる事、系統的なる事、調和的なる事

奈良縣師範學校教諭 中川壽照先生著

中等農學教科書

理想的師範學校用農業教科書

上中下全三冊
正價各冊五十五錢

文部省視學官農學士 針塚長太郎先生
農科大學教員養成所講師 矢田鶴之助先生

共著

農村補習新讀本

前編後編續編
全編三冊
正價各冊二十五錢

文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 元良勇次郎先生
文學博士 中島力造先生
文學博士 三宅雄次郎先生
文學博士 浮田和民先生
文學博士 福來友吉先生
文學博士 加藤立智先生
文學士 吉田熊次先生
文學士 有馬祐政先生

共著

國民生活と宗教

菊判形全壹冊
正價金六十錢

弘道館出版書目

理學博士 田中正平先生校
理學士 田邊尙雄先生著

音響と音樂

△出版界の珍書音響學著述の嚆矢

洋裝菊判全壹冊
插畫木版密書七十個
正價金八拾錢

陸軍砲工學校教授 理學士 石原 純先生著

美しき光波

△興味ある理科教授をなさんとするものは必ず讀め

洋裝菊判上製全二冊
插畫百三十九個
正價金壹圓五拾錢

京都大學助教授 理學士 柏木好三郎先生著

重力と彈力

洋裝菊判全壹冊
插畫木版密書寫真版六十餘個
正價金壹圓五拾錢

陸軍教授 理學士 淺野 鞏先生著

電氣と磁氣

洋裝菊判全壹冊
插畫木版密書寫真六十個
正價金壹圓五拾錢

發行所 東京神田區猿樂町貳番 弘道館

發行所 東京神田區猿樂町貳番 弘道館

弘道館出版書目

海軍教育本部海軍中佐 眞田鶴松先生校閲
弘道館編輯部編纂

四六判 頗る美
挿書百餘個 挿入
正價金拾貳錢
送料金貳錢

樞密顧問官 子爵 金子堅太郎先生著
日本教育の將來
▲教育家諸君の一讀を望む▼
(賜天覽)

菊判 形全一冊
正價金貳十錢

東京高等師範學校教授 文學士 保科孝一先生著
東京帝國大學文科大學助教授
言語講話
▲言語學の一斑を平易懇切に説明せられたるもの▼
(修正參版)

總布製 全一冊
正價金八拾五錢

文學士 保科孝一先生著
改定假名遣要義
▲改正の理由、性質、及び如何に教授上に應用すべきかは本書により明らか也

菊判 全一冊
正價金四十錢

弘道館出版書目

講演者 理學博士 石川千代松先生
高等師範後藤牧太先生
農學博士 横井清一先生
理學士 川村清一先生
通俗科學講演會編
科學講演集
東京帝國大學 文學博士 姉崎正治先生著
國運と信仰
▲博士最近數年間の大論文集めたる者▼

菊一冊 頗る美 全一冊
正價金六十錢
洋裝總布全一冊
正五頁 百九拾餘頁
郵正價金十壹圓

文學士 北澤定吉先生著
偉人耶蘇
▲著者の倫理教育宗教に關する意見を叙して俗學者俗宗教家教育家の頭上に痛撃を加へしもの

菊判 全一冊
正價金五十錢
送料金六錢

米國ハーバート 大學教授
ゼームス博士原著 北澤文學士、吉田文學士、西山慈治合譯
最新哲學 實際主義
(原名ブラクマチズム)
菊判 形全壹冊
印刷中 近刊

發行所 東京神田區猿樂町貳番 弘道館

發行所 東京神田區猿樂町貳番 弘道館

弘道館出版書目

文學博士 遠藤隆吉先生著
虛無恬淡主義

菊判形全一冊
正價金四十錢

文學博士 井上哲次郎先生序 秋山悟庵先生編纂
名家論叢 **現今宗教問題**

四六判形全一冊
正價金五十錢

文學博士 藤隆吉先生著
社會學研究 第壹編

發音と表情

菊判全一冊
正價金拾五錢

文學博士 藤隆吉先生著
社會學研究 第貳編

社會情調と教育

菊判全一冊
正價金拾五錢

文學博士 藤隆吉先生著
社會學研究 第參編

社會心理の研究

菊判全一冊
正價金貳十五錢

文學博士 藤隆吉先生著
社會學研究 第四編

發音情調

菊判全一冊
正價金拾貳錢

以下隔月壹卷宛發行 現代新思潮に接觸せんとする士は讀め

發行所 東京神田區猿樂町 弘道館

弘道館出版書目

東京帝國大學 文科大學教授

賜天覽 **倫理と教育**

文學博士 井上哲次郎先生著
洋裝 菊判上製
紙數六百三十餘頁
正價金壹圓五拾錢

東京第一高等學校長 農學博士 法學博士

歸雁の蘆

新渡戶稻造先生著
洋裝 頗る美本 函入
挿畫十數葉 挿入
正價金壹圓

東京高等師範學校講師

少年鑑

巨理章三郎先生著
洋裝 菊判 頗る美本 函入
木版寫眞版 挿畫壹百個
正價金壹圓七十錢

盛岡高等農林學校長 農學博士

實用倫理

玉利喜造先生著
洋裝 菊判上製 全一冊
紙數四百五十餘頁
正價金壹圓五拾錢

△修身教授の絶好参考書 學生諸君の最良修養書

發行所 東京神田區猿樂町 弘道館

弘道館出版書目

東京帝國大學 文學博士 元良勇次郎先生著

心理學綱要

版七

- ◎洋裝菊判全一冊
- ◎紙數三百卅二頁
- ◎正價金壹圓

△本書は如何に世の歡迎を受けてあるが實行の驚へく迅速にても

東洋大學 講師 文學士 紀平正美先生著

最新論理學綱要

版三

- ◎洋裝菊判全一冊
- ◎紙數三百餘頁
- ◎正價金壹圓

△世評論理學書中の泰斗なりと本書は一時速成の著にあらず

東京帝國大學 農科大學教授 理學博士 石川千代松先生著

進化的動物學綱要

刊新

- ◎洋裝菊判上製
- ◎插畫木版密書七十餘個
- ◎正價金壹圓參十錢

△動物研究に志すものは必ず本書より始めよ

文學士 北澤定吉先生著

哲學史綱要

版三

- ◎洋裝菊判上製
- ◎紙數三百六十餘頁
- ◎正價金壹圓

弘道館出版書目

東京帝國大學 文學博士 福來友吉先生譯

教育心理學講義

版再

- ◎洋裝菊判全一冊
- ◎數三百餘頁
- ◎正價金壹圓

△教育心理活用の唯一指針

文部省 視學官 兼 東京女子高等師範學校教授 榎山榮次先生著

教育教授の新潮

版六

- ◎洋裝脊皮上製
- ◎紙數八百餘頁
- ◎正價金貳圓

△本書は教育教授の理論并に實際に對する革新の新聲也

東京帝國大學 文部省 助教授 文學士 吉田熊次先生著 (增訂第六版)

系統的的教育學

版六

- ◎洋裝菊判上製
- ◎紙數八百頁
- ◎正價金貳圓

△教育界の明星出現

文學士 北澤定吉先生著

倫理學史綱

附錄 倫理學者 年表一冊

- ◎洋裝菊判上製
- ◎紙數四百餘頁
- ◎正價金壹圓卅五錢

△倫理研究者の燈火○文部省檢定受験者の絶好參考書

發行所 弘道館 東京 神田區 猿樂町 貳 振替 口座 陸 貳 陸 貳 貳

發行所 弘道館 東京 神田區 猿樂町 貳 振替 口座 陸 貳 陸 貳 貳

324
138

弘道館出版書目

文部省視學官兼農科大學教授 農學博士 澤村 眞先生著

農業教授法講義

洋裝菊判全一冊
插入密書製圖十八葉
正價金壹圓拾五錢

東京高等師範學校文學博士 遠藤隆吉先生著

東洋倫理學講義

洋裝菊判四百五十頁
正價金壹圓五十錢

農科大學教授 農學博士 本多靜六先生增訂
奈良縣立農林學校教諭 農學士 安藤時雄先生著

林學講義

洋裝菊判四百五十頁
正價金壹圓五十錢

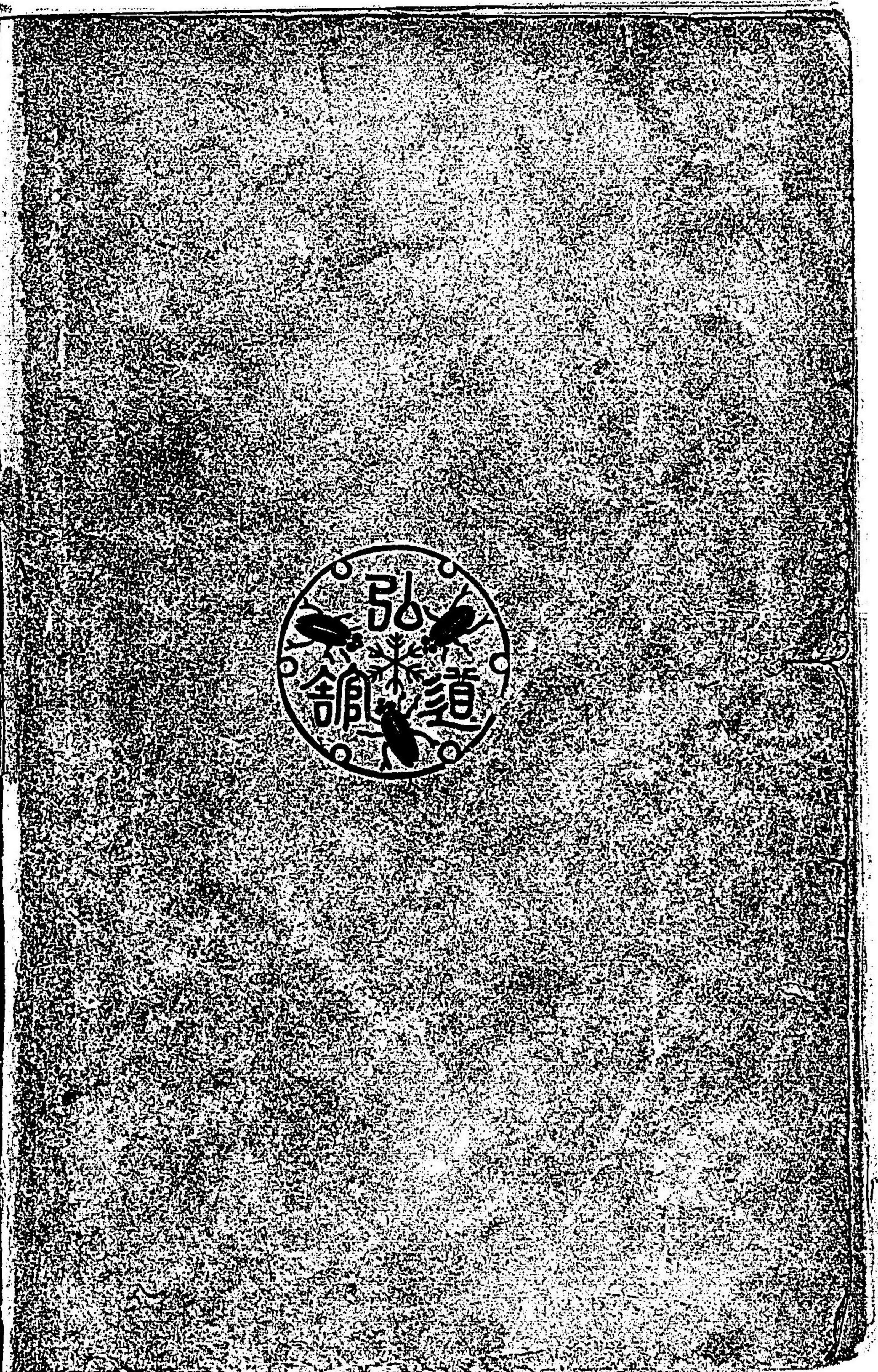
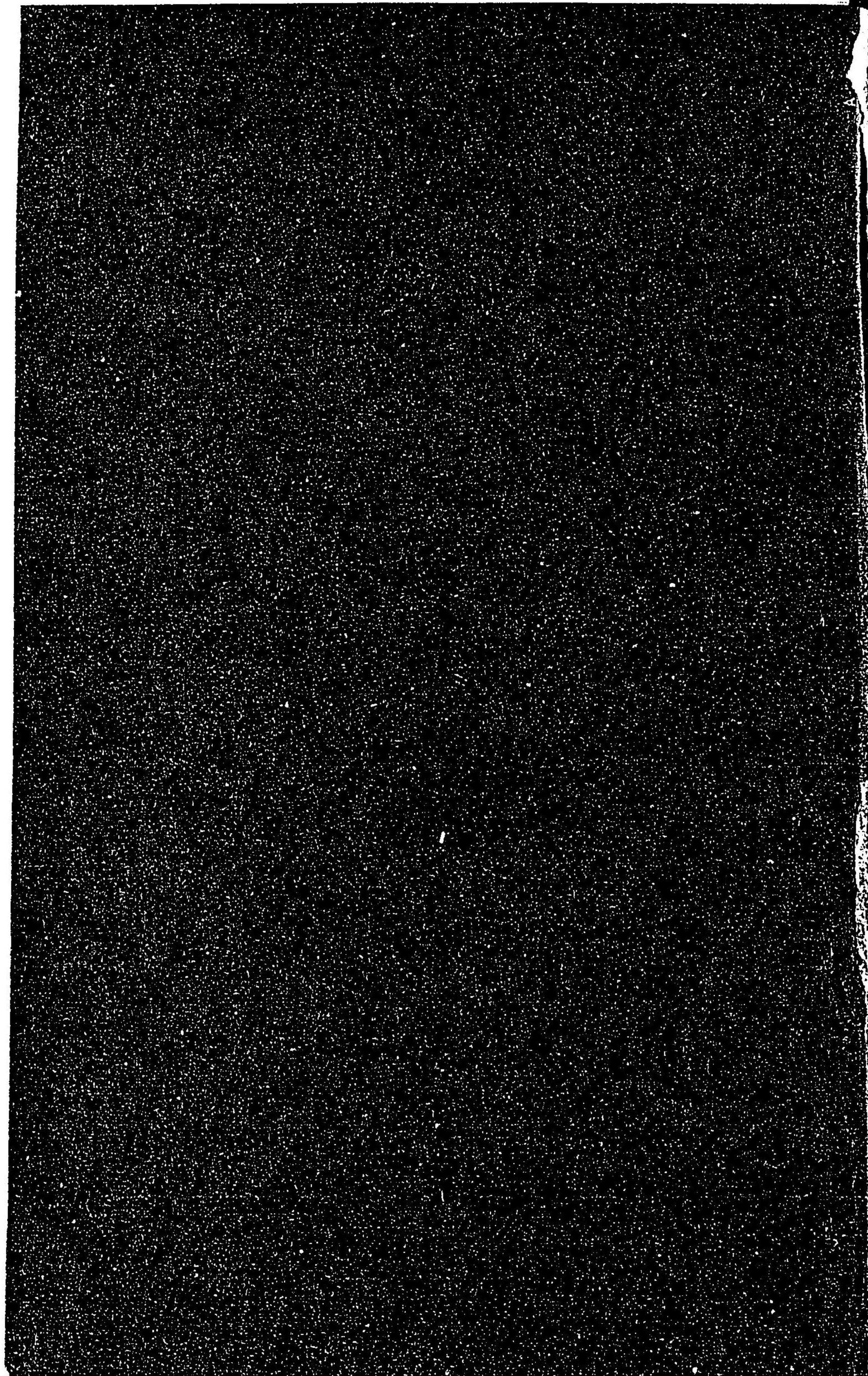
農學博士 澤村 眞先生著

農藝化學講義

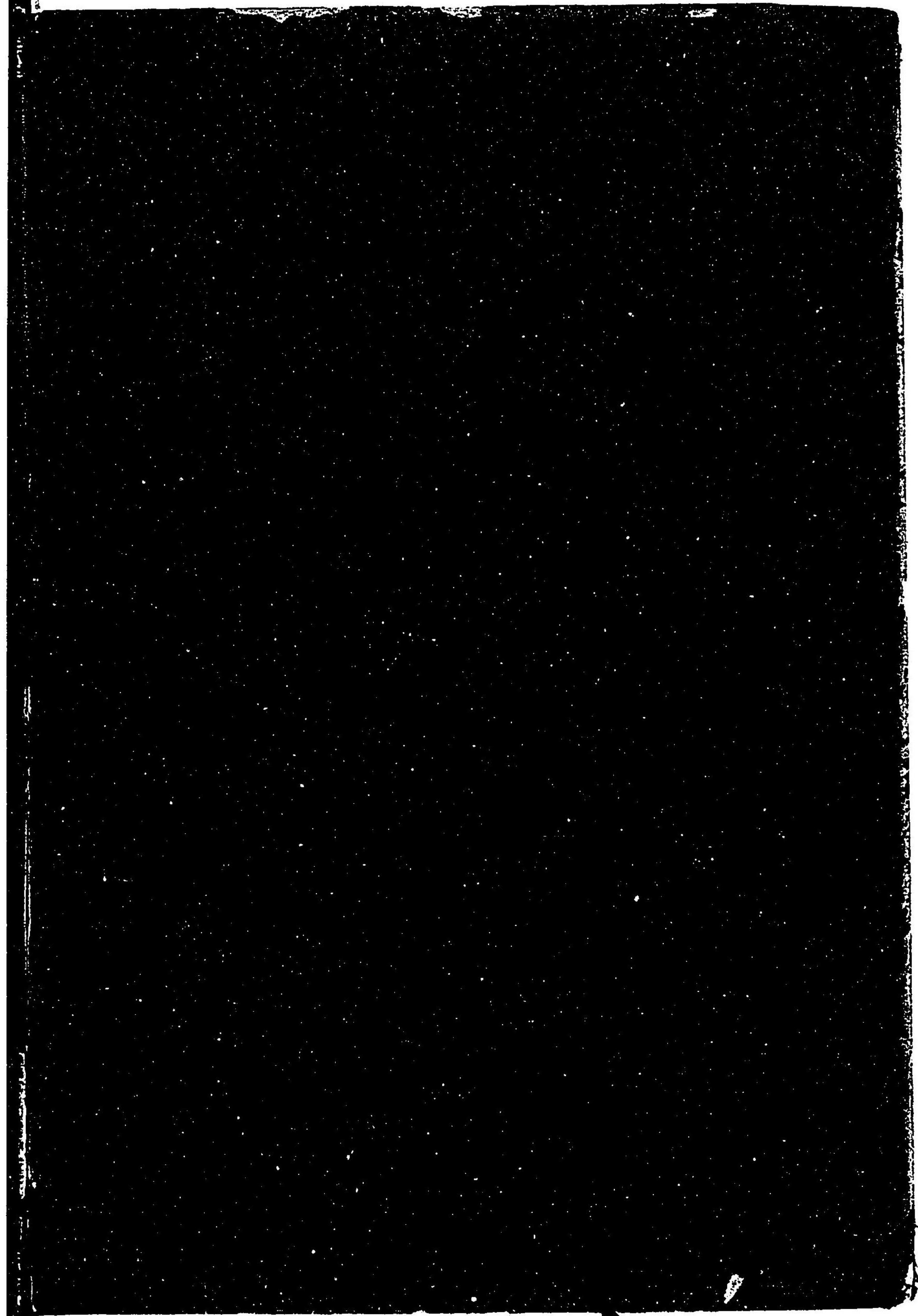
洋裝菊判四百五十餘頁
正價金壹圓三十錢

△極めて實際的に應用的の好著

發行所 東京神田區猿樂町 弘道館



324
138



013583-000-8

324-138

国民生活と宗教

東亞協会研究部/編

M42

ABA-0051



